

《薬局サーベイランスコメント》

『第10週（3月5日～11日）のインフルエンザの患者数は約47万人と5週連続して減少がみられたが、流行はまだ継続しており、春休みに入るまでは注意が必要』

2018年3月13日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第10週（3月5日～11日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は471,746と5週連続して前週の値よりも減少しました（図1）。また、週明けの月曜日（2018年3月12日）の推定患者数は81,307と前週の月曜日の値を下回っており、インフルエンザの患者数は更に減少していくものと予想されます。

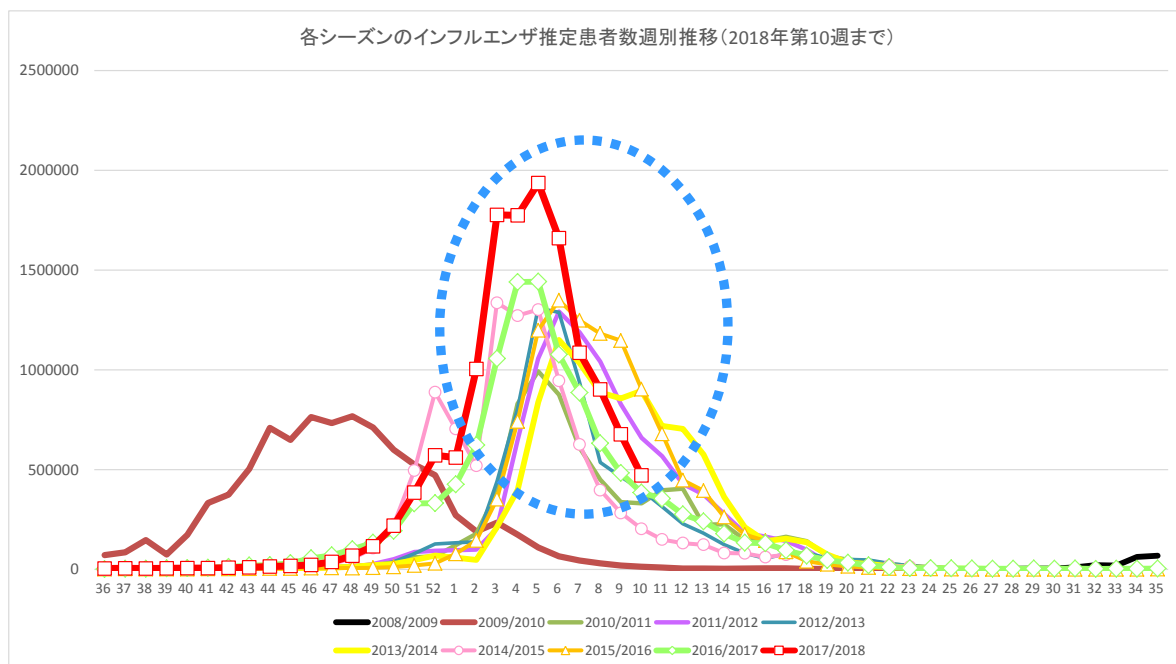


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第10週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第10週の推定患者数= 81,307）

2017年第36週から2018年第10週までの累積の推定患者数は13,348,847であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は10.53%と10%を上回りました。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(44.82%)、10～14歳(32.08%)、0～4歳(24.33%)、15～19歳(14.92%)、40～49歳(9.30%)、30～39歳(8.80%)、50～59歳(7.80%)、20～29歳(7.35%)、60～69歳(5.56%)、70歳以上(3.77%)の順となっています（図

2)。

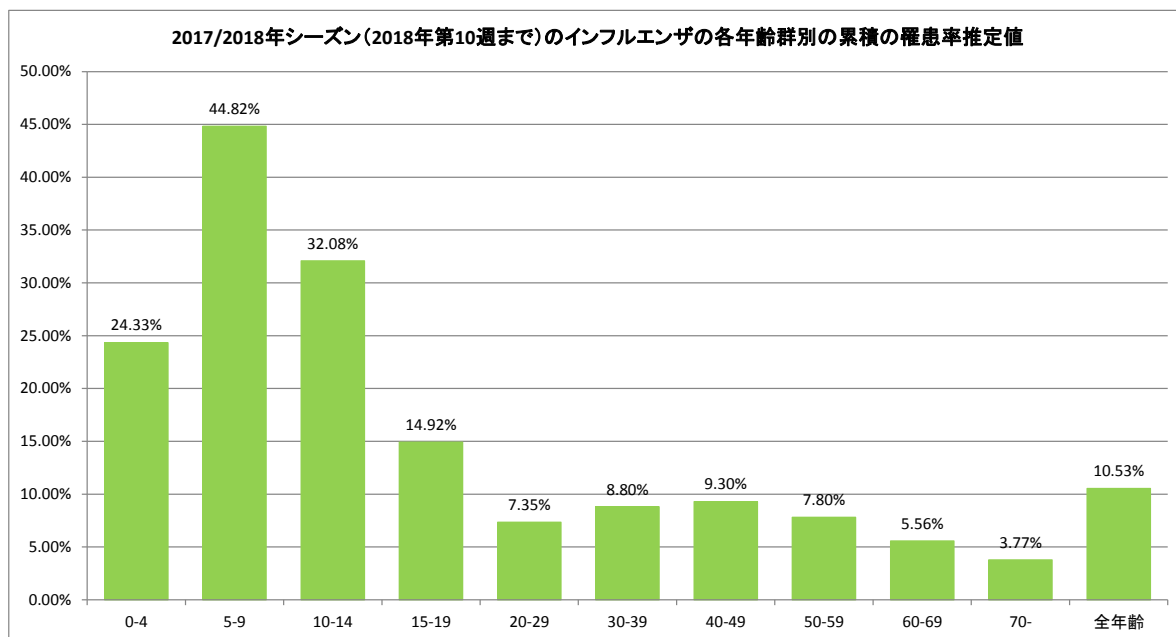


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017 年第 36~2018 年第 10 週、累積推定患者数= 13,348,847)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス (5,279 検体解析) は、B 型 44.1%、A/H1pdm 33.8%、A/H3 (A 香港) 亜型が 22.1%の順となっています。一方、2018 年第 5 週以降に検出されたインフルエンザウイルス 892 検体の解析では B 型 66.9%、A/H3 (A 香港) 亜型 25.0%、A/H1pdm 8.1% と B 型 (大半が山形系統) が多数を占めています (図 3)。

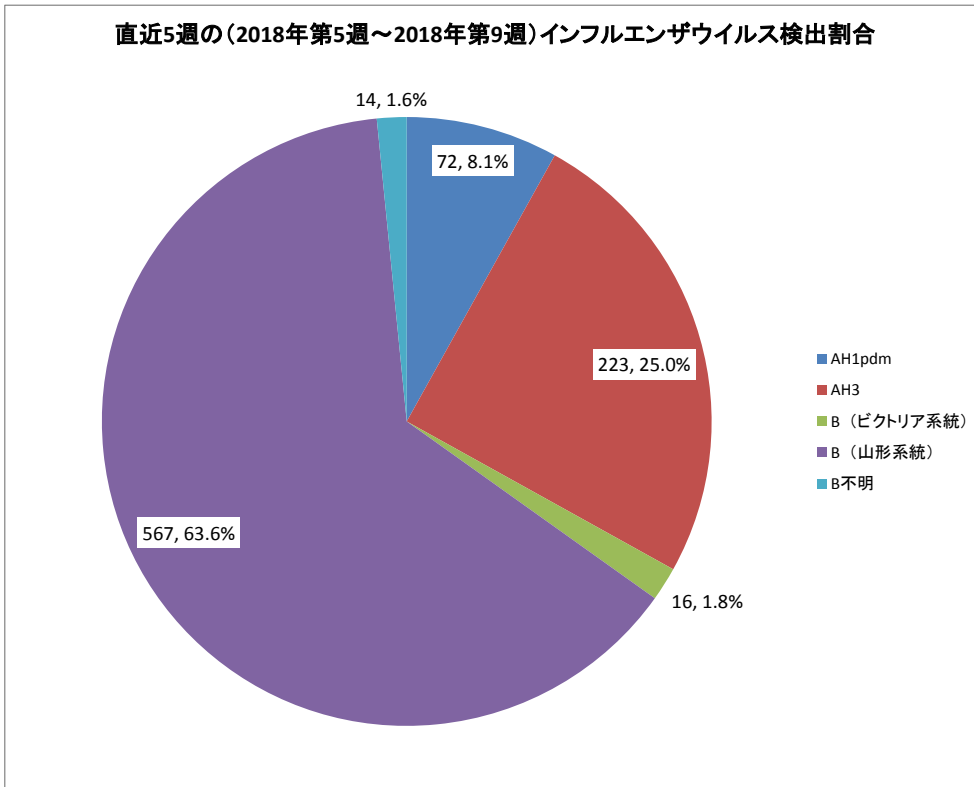


図 3. 直近 5 週間のインフルエンザウイルスの検出割合 (2018 年第 5 週～9 週、検出数 892)

第 10 週のインフルエンザの患者数は約 47 万人と 5 週連続して減少がみられ、今後この傾向が継続していくものと予想されます。一方、インフルエンザの流行はまだ継続しており、学校等が春休みに入るまではまだ注意が必要です。